

日本転倒予防学会誌

第1巻 第1号 2014年6月

目次

- 3 巻頭言 希望への道を拓く最初の一里塚
武藤 芳照
- 5 総説 高齢者のサルコペニアと転倒
山田 実
- 11 総説 転倒予防に向けた看護・介護職のための運動機能評価と多職種連携
上内 哲男
- 17 総説 認知症のある高齢者の転倒予防
征矢野 あや子
- 23 総説 建物の構造・管理に起因する転倒・転落事故の紛争事例の動向
望月 浩一郎
- 31 原著 初回転倒時と再転倒時における機能的自立度の比較と退院前訪問指導，試験外泊，
家族指導との関係性
野原 慎二 筒井 宏益 渡辺 充伸 内賀嶋 英明
- 37 原著 転倒歴のある高齢糖尿病患者の転倒要因の検討
サブレ森田 さゆり 高梨 早苗 嶋田 佳代子 川嶋 修司
細井 孝之 櫻井 孝 徳田 治彦 原田 敦
- 45 原著 歩行時模擬スリッパ刺激に対する姿勢制御反応の運動学的評価
—手提げ運搬の有無による比較—
北地 志行 寺西 利生 田辺 茂雄 伊藤 慎英 宮下 大典
大野 健介 周 蘊弢 高橋 亮吾 金田 嘉清
- 55 原著 公共空間における転倒の実態解明を目指した異常検出技術の評価に関する研究
小林 吉之 柳澤 孝文 坂無 英徳 野里 博和 高橋 栄一 持丸 正明

日本転倒予防学会より

65 お知らせ 68 第1回理事会議事録 70 会則 73 役員名簿
74 『日本転倒予防学会誌』投稿規程・執筆要項 他 79 編集委員会 80 推奨品登録企業一覧



日本転倒予防学会

シンボルに込めた思い

ゆらいでも決して倒れない「起き上がりこぼし」をモチーフとして、しなやかな安定感と活力を表現しています。

ゆらぎの造形は美しく咲く花にも通じ、転倒予防で人生が明るく美しく花開く様相を象徴します。

シンメトリカルな安定感あるフォルムは、JSFPの組織的な強さと多様性をも表現しています。

シンボルマークデザイン：株式会社中西元男事務所（PAOS）

Japanese Journal of Fall Prevention

Vol.1 No.1 June 2014

Contents

- 3 **Preface** The First Milestone toward the Hope
Yoshiteru MUTOH
- 5 **Review** Sarcopenia and the Risk for Falls in Older Adults
Minoru YAMADA
- 11 **Review** Motor Assessment and Interprofessional Collaboration for Nurses and Caregivers
focusing on Fall Prevention
Tetsuo KAMINAI
- 17 **Review** Fall Prevention for Elderly with Dementia
Ayako SOYANO
- 23 **Review** Trend and Characteristic of Dispute Cases on Fall Accidents based on Construction
and Administration on Building in Japan
Koichiro MOCHIZUKI
- 31 **Original** Comparison of Functional Independence after an Initial Fall and a Second Fall, and
the Relationship of Functional Independence with Home Guidance before Discharge,
Out-of-hospital Trial, and Instructions for Family Members
Shinji NOHARA Hiromitsu TSUTSUI Mitsunobu WATANABE Hideaki UCHIGASHIMA
- 37 **Original** Characteristics of Elderly Diabetic Patients with a History of Falls
Sayuri SABURE-MORITA Sanae TAKANASHI Kayoko SHIMADA Shuji KAWASHIMA
Takayuki HOSOI Takashi SAKURAI Haruhiko TOKUDA Atsushi HARADA
- 45 **Original** Kinematic Assessment of Postural Control during Simulated Slips while Walking :
A Comparison with and without Carrying a Handbag
Shiko KITAJI Toshio TERANISHI Shigeo TANABE Norihide ITO Daisuke MIYASHITA
Kensuke OONO Sunon SYU Ryogo TAKAHASHI Yoshikiyo KANADA
- 55 **Original** Assessment of Abnormal Detection Technology Aimed for the Clarification of the
Causes of Falls in Public Area
Yoshiyuki KOBAYASHI Takafumi YANAGISAWA Hidenori SAKANASHI Hirokazu NOSATO
Eiichi TAKAHASHI Masaaki MOCHIMARU
- 65 **Information from The Japanese Society for Fall Prevention**



JSFP

The Japanese Society
for Fall Prevention

What the Symbol Tells

The three overlapping patterns show the swaying movement of an *okiagari-koboshi*, a Japanese doll that rights itself whenever knocked over. The symbol represents resilience and stability that our society aspires for.

The patterns also show three petals of a blooming flower. We believe that life could be made better and more beautiful through our effort toward fall prevention.

The patterns also represent the structural strength and versatility of our society.

logo design : Motoo NAKANISHI (PAOS)

巻頭言

希望への道を拓く最初の一里塚

『日本転倒予防学会誌』(Japanese Journal of Fall Prevention / JJFP)第1巻第1号を発刊し、お届けすることができたことを素直に喜び、また誇りに思っています。

この学術雑誌が生まれたということは、日本転倒予防学会という新たな学術研究組織が、着実にその歩みを始めた証しであり、今秋開催される第1回学術集会への大きな布石であり、かつ、今後の活発な学術研究と社会貢献活動への最初の基盤が広く社会全般に公開されたことを意味しています。

10年間の転倒予防医学研究会の多様な学術活動と社会啓発活動の積み重ねにより、転倒予防に関わる分野・領域、職種を超えた幅広い人的ネットワーク作りがなされ、それぞれの知識・技術、経験と感性を尊重し合い、交流し合うことの大切さと楽しさを共有することができるようになりました。

「融合と創発」という言葉に表現されるように、分野・領域を超えた専門職同士の交流は、新たな視点と知見を生み出し、目前の学術的・社会的課題を解決する手だてを見出す道を拓くと考えています。

転倒予防は、単に医療、介護の分野・領域だけの目標ではなく、幅広く多様な分野・領域の人々の知恵と力と人脈を集合してこそ、初めて解決に結びつけられる巨大な社会的目標なのです。

本学会誌が、転倒予防に関わる多彩な学術的知見と実践的報告、最新情報を収集・整理・分析して発信できる基盤となることを希望しています。

そして、本誌の編集・発刊を着実に積み重ねていくことが、転倒予防という巨大な社会的目標を達成するための営みとなることを確信しています。

日本転倒予防学会の正式発足(平成26(2014)年4月1日)以前より、本誌編集委員会を実質的に稼働させて厳しい作業を続け、無事発刊にこぎつけていただいた上岡洋晴編集委員長、鈴木みずえ副理事長をはじめ、各委員、そしてご多忙の中、短期間に総説・原著論文等を仕上げてくださいました執筆者各位に満腔の謝意を表します。

これが、希望への道を拓く最初の一里塚です。共に前に進みましょう！

平成26(2014)年 5月 吉日

日本転倒予防学会
理事長 武藤 芳照